



学年の様子など、ホームページもごらんください。 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kurosuda/>



「たね」をまき「き」をそだてる

校長 平岡 仁樹

新年度を迎えて1か月。子どもたちは、新しい環境で新しい友達や先生と新しい学校生活をそれぞれの形でスタートさせています。そして、新しく始まった「学習」や「活動」に一生懸命に取り組む姿を見ることができます。

1年生の教室では、折り紙を折っている子どもたちがいました。私の好きな色の折り紙をつかって、それぞれ得意なものを作っては、「校長先生、これあげます。」「校長先生へのプレゼントです。」といった次々に素晴らしい作品を届けてくれます。ここで私は、「ありがとう。」「うれしいよ。」の言葉と共に、「上手だね。」「頑張っただね。」と声をかけました。子どもたちの活動に対する「成果承認」をするための「たね」の言葉です。

そんな1年生のために行われる「1年生を迎える会」。早速、6年生のスクールプランニング委員会の子どもたちが、1年生にも全校の児童にも楽しんでもらえるようにと企画をすすめ、校長室に相談や依頼にやってきました。その1年生を思いやる温かい気持ちに、「やさしい高学年になっただね。」「すっかり学校のリーダーだね。」と声をかけました。子どもたちの成長に対する「成長承認」をするための「たね」の言葉です。

毎朝、登校してくる子どもたちは、やる気に満ちた元気な笑顔の子もいれば、緊張した面持ちの子もいます。まだまだ新しい環境になじめず、涙を流す子もいます。「疲れていて眠たい。」「おうちに帰りたい。」と言いつつも、頑張って学校にやって来た子どもたちには、「眠いんだね。」「寂しいんだね。」そして、「よく学校に来てくれただね。先生はうれしいよ。」と声をかけています。子どもの存在、思い、考えそのものに対する「存在承認」をするための「たね」の言葉です。

一人ひとりが、それぞれの努力をして、新しい環境で新しい友達や先生と新しい学校生活をスタートさせています。そんな子どもたちの姿に、たくさんの「たね」のつく言葉で、その子自身を「承認」してあげたいと思います。たくさんの「たね」を受け取って、存在そのものを「承認」された子どもたちなら、「頑張ってよかった」「成長してよかった」「私でよかった」という気持ちになっていくはずです。

子どもたちの「まえむき」「やるき」を育てるために、あたたかな「たね」の言葉は、保護者や地域の皆様とともに、引き続きたくさんまいていきたいと思っています。